

春季企画展

小学校開校 150 年記念～まな や れき し学び舎の歴史～

2023 年 4 月 22 日 (土) ～ 6 月 11 日 (日)

■開館時間：9:00 ～ 17:00 (入館 16:30 まで)

■休館日：毎週月曜、5/2、6/1

■入館料：無料

大磯町郷土資料館

Oiso Municipal Museum



昭和 10 年 (1935) 頃の大磯小学校
「所持品検閲」持ち物検査の様子

開催にあたって

大磯町にある二つの小学校、おおいそ大磯小学校とこくふ国府小学校は、今年、令和 5 年 (2023) 4 月に開校 150 年を迎えました。現在のわたしたちの暮らしに切り離せない学校。学校という学び舎には、どのような歴史があるのでしょうか。当館が所蔵する学校資料から、そのあゆみを振り返ります。

義務教育が 9 年間になるまで

1. 学校の歴史 大磯の学校歴史ものがたり

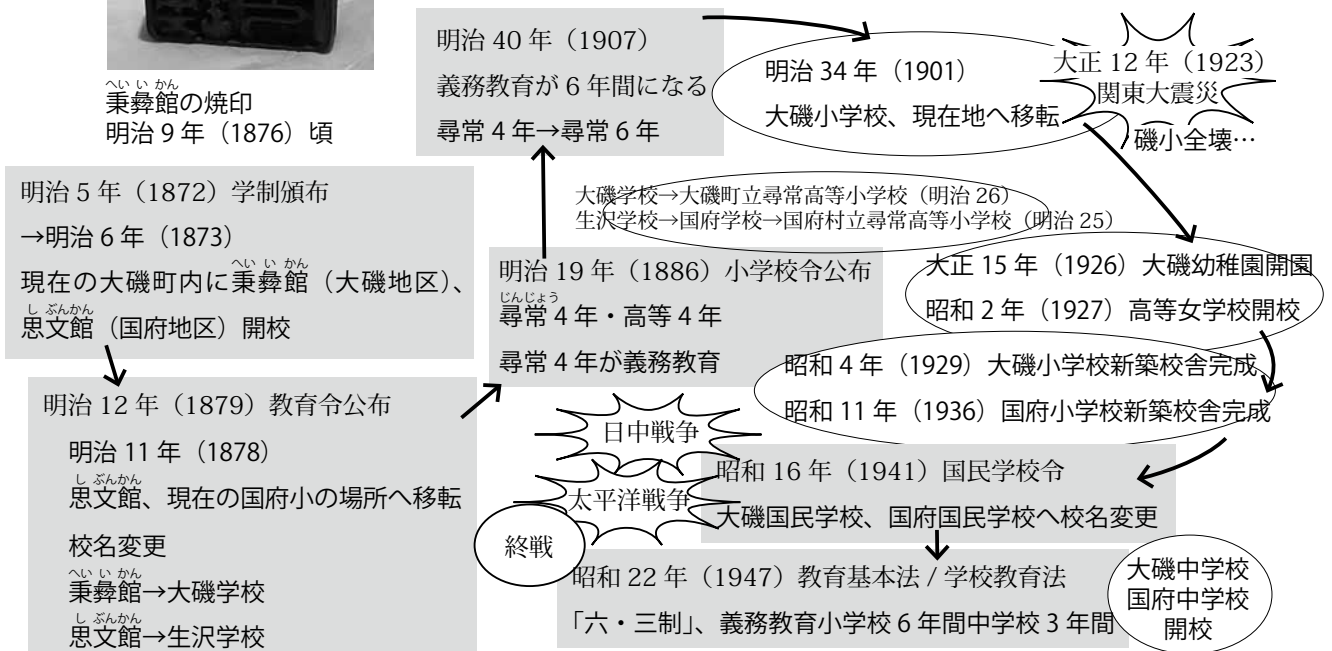
学校最古の資料!



へいいかん秉彝館の焼印
明治 9 年 (1876) 頃

へい秉彝とは「人が天から定められた常道に従う」という意味

明治時代の始まりは、日本の学校制度の始まりでもありました。国の制度の変化と大磯町の学校の歴史とは、どのように関係しているのでしょうか?



2. 昔の学校あれこれ

昔の子どもたちの様子は？

学校には、みんな、通っていたの？

- 学校ができた明治時代の初めは、家業の手伝いや学費の問題から、学校に通えなかった子どももたくさんいました。子どもが小学校に当たり前のように通えるようになったのは、義務教育が6年間になった明治40年代（1900年代）頃だったと言われています。その頃の大磯小学校の1年生は200人前後、国府小学校の1年生は120人前後でした。ちなみに、現在の児童数は大磯小学校の1年生が130人前後、国府小学校の1年生が80人前後です。

当時の服装は？

- 卒業アルバムに写る子どもたちの服装を見ると、大磯における和服(着物)から洋服への移行は、昭和15年(1940)頃だったようです。この頃は戦争中で、生活が苦しい時代でもありましたが、子どもたちの生活は少しずつ現在に近づいていました。

どんな勉強をしていたの？

どんな科目があったの？

- 学校では初め、いわゆる「よみ」「かき」「そろばん」を中心とした授業が行われていましたが、明治19年(1886)に定められた小学校令によって、修身・読書・作文・習字・算術・体操を必修とし、それぞれの地域の状況に応じて、日本地理・日本歴史・図画・唱歌・手工・女子のみ裁縫を教えることが決められました。その後、読書・作文が国語となり、必修ではなかった科目が次第に必修となって、現在の国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作(図工)、家庭、体育につながりました。近年は外国語も教科となっています。

昔の校舎？

どんなところで勉強していたの？

- 大磯小学校、国府小学校の校舎は、このように変わってきました！

大磯小学校の校舎

明治6年(1873) 元大磯宿の本陣 尾上家宅に開校
→ 3か月後に大運寺へ移転

明治15年(1882) 大運寺に隣接する北本町の敷地へ移転

明治34年(1901) 現在地へ移転

大正12年(1923) 関東大震災により全壊

昭和4年(1929) 新築校舎完成

昭和45年(1970) 現在の校舎完成

平成12年(2000) 現在の校舎完成



大磯小学校に登校する児童 / 昭和10年(1935)頃
当時は、このように集団で登校することを、「団体昇降」と言いました。



大正時代の大磯小学校の体操の授業
体操服は洋服でした。



明治時代の教科書



明治34年築の校舎



昭和4年築の校舎

国府小学校の校舎

明治6年(1873) 東昌寺とうしょうじに開校
明治11年(1878) 現在地へ移転
大正12年(1923) 関東大震災では大きな被害なし
昭和11年(1936) 新築校舎完成
昭和45年(1970) 木造校舎1棟が全焼
昭和47年(1972) 新築校舎完成
平成4年(1992) 現在の校舎完成



昭和11年築の校舎



昭和32年頃

昔の教室はこんなところ！

巨大な絵やそろばんは何に使ったの？

- もちろん、授業に使いました。今の授業でも映像などの目で見る教材は、わかりやすい授業に効果的です。昔はまだ簡単に映像が手に入る時代ではなかったので、教科書の内容を大きなイラストにした掛図かけずや、巨大な算盤そろばんが使われました。



大きな算盤を使った授業
昭和10年頃 / 大磯小学校



掛図の利用 昭和10年頃 / 大磯小学校



給食を運ぶ子どもたち
昭和39年 / 大磯小学校

昔の給食！

給食はいつからあったの？

- 大磯小学校では昭和37年(1962)から、国府小学校では昭和39年(1964)から始まりました。当時のメニューには、カレー煮、サンマのかば焼き、ビーフシチューなどがありました。

3. 小学校だけじゃない！ ～学び舎の数々

大磯には小学校だけでなく、
たくさんの教育機関があり、
それぞれ長い歴史があります。

国府小学校生沢分校・国府中学校生沢分校

明治36年(1903)に開かれた薫育院くんいくいんが始まり。明治44年(1911)に国府分院が開かれ、翌年本院となりました。現在は、児童自立支援施設「県立おおいそ学園」に在園している子どもたちに対して、学校教育を実施しています。

敬業学舎

国府小学校初代校長の伊東希元いとうきげんが開いた私立の学校。明治33年(1900)に女子敬業学舎として新たに開校され、大正期は大磯周辺地域の女子教育を担っていました。

大磯高校

昭和2年(1927)大磯実科高等女学校として開校。昭和18年(1943)に大磯高等女学校と改称し、昭和25年(1950)に男女共学となった翌年、神奈川県設置の学校となり、県立大磯高等学校となりました。

大磯の幼稚園

大磯幼稚園は大正15年(1926)に開園しました。戦後、子どもの数が増えるのに伴い、昭和34年(1959)に国府幼稚園、昭和48年(1973)に小磯幼稚園、翌年月京幼稚園がっきょう(現在のたかとり幼稚園)が開園しました。その他、山王幼稚園さんのおうなど、私立の幼稚園もたくさんありました。

大磯の中学校

昭和22年(1947)義務教育が9年間になり、現在の大磯町内にも大磯中学校と国府中学校が開校しました。開校当初は校舎がなく、屋外や小学校の校舎で授業が行われました。

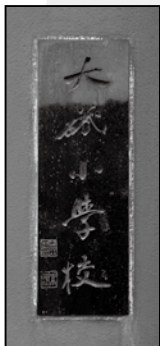
4. 著名人と学校

大磯に自宅があった伊藤博文と
よしだしげる
吉田茂は、学校にもいろいろな
そくせきのこ
足跡を残しています。

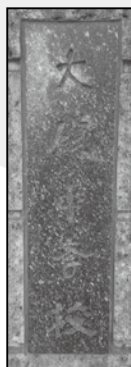
吉田茂と大磯の学校



大磯中学校に新校舎ができた時、お祝いの式典に参列。両中学校には吉田の書が贈られ、大磯中学校と大磯小学校の門標（標札）は、吉田の字で書かれています。



吉田茂が書いた大磯小学校と大磯中学校の門標



伊藤博文と大磯小学校

大磯小学校に 500 円を寄付し、そのお金で、子どもたちにお金の大切さを伝えるため、貯金通帳を作らせました。伊藤ゆかりの品々は、長い間大磯小学校に保管されていました。



大磯小学校に贈られた伊藤博文の椅子

■主な参考・引用文献■

- 大磯小学校創立八十周年記念事業委員会編『大磯小学校八十年史』 1953
- 国府町教育委員会編『創立八十周年国府小学校史』 1953
- 二十周年誌編集委員編『大磯町中学校創立二十周年誌』大磯町教育委員会 1967
- 大磯小学校編『開校百周年記念誌おおいそ』大磯町教育委員会 1973
- 国府小学校編『開校百周年記念誌こくふ』大磯町教育委員会 1973
- 大磯幼稚園編『大磯町立大磯幼稚園半世紀のあゆみ』大磯町教育委員会 1975
- 『創立 70 周年記念誌 大磯』神奈川県立大磯高等学校 1997
- 大磯町編『大磯町史』7 通史編近現代 2008
- 『広報おおいそ』

■ご協力者一覧■

本展の開催にあたり、次の方々からご提供いただきました資料や情報を活用させていただきました。

記して御礼申し上げます。（敬称略・五十音順）

大磯小学校 大磯中学校 国府小学校 国府中学校 美化センター

安部川征彦 岩本喜三郎 オダギリミホ 加藤和夫 加藤廣美 小林佳代子 鈴木喜八郎 瀬川啓子 中村敬
西海栄喜繁 西海誠 船橋俊通 森田康夫 湯口正毅 吉村英夫

大磯町郷土資料館 Oiso Municipal Museum

■住所

〒255-0005 神奈川県中郡大磯町西小磯 446-1

TEL 0463(61)4700 FAX 0463(61)4660

<http://www.town.oiso.kanagawa.jp/oisomuseum/>

■交通

JR東海道線大磯駅下車

徒歩 30 分（約 2km）

バス「二宮駅行」「湘南大磯住宅行」城山公園前下車 5 分

小田原厚木道路大磯 IC より 5 分、西湘バイパス大磯西 IC より 5 分

駐車場／県立大磯城山公園駐車場利用



郷土資料館HP



大磯小学校の校内展覧会にて
子どもの作品から
昭和 10 年頃